

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	事業所内で食事中における言葉かけ、プライバシーの配慮不足が見られる。	入居者さんが食べやすい環境を提供し美味しく楽しく食事が出来る事を目標にする	管理者は他棟の食事介護を体験し今後の介護の参考にする。指摘を受けた棟はミーティングを行いプライバシーを損傷せず本人の食べ方を尊重できる声かけや食事提供を話し合う。ミーティングの内容は全職員に配布し共通の介護を提供することを目指す	1ヶ月
2	13	災害対策の具体的な内容が不十分	災害時に全職員が避難場所、避難方法、持ち出し品等を周知徹底できるようにする	全体会議を2月に行い災害が起きた時の非難誘導、持ち出し品、備蓄品を全員で再検討する	3ヶ月
3	7	運営に関する職員の意見の吸い上げが少なく研修等の浸透が悪い	運営に関わる会議を開く事で意見や提案を運営に反映させる事が出来る。研修は全職員が計画的に参加することが出来る事を目標にする	全職員でテーマを決めて運営に関わる会議を開く。月1回は管理者会議を開き意見交換を行う。各職員が学びたい研修の内容に参加することを目指す	4ヶ月
4	10	アセスメント、モニタリングの分かりにくい内容	見やすく、評価をしやすい介護計画書の作成	各棟のミーティングを1月に行い、全体で考え、見やすく、分かりやすい介護計画書を作成する	4ヶ月
5	12	見取りの指針があるが職員の認識は漠然としている	適切な介護空間において、身体的および精神的ケアや、痛みを緩和する介護技術を獲得した看護、介護職員による見取り介護を可能な限り住み慣れたホームで受けることが出来るよう最大限努め、これらを持って尊厳あるターミナルケアを目指す	①身体状況の変化の把握②各職種の参加によるカンファレンス③終末期をイメージする支援を行う ④身体的ケア⑤ご家族に対する支援 ⑥臨終時と死後の対応	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。